

(c) 【海獣繁殖状況調査】



(c) 【海獣繁殖状況調査】

1) 目的

北海道沿岸には 5 種のアザラシ類やトド、キタオットセイにくわえて近年ではラッコと多様な海棲の食肉目哺乳類が生息する。アザラシ類のうち 4 種は氷上繁殖型で、大部分が流氷接岸期に来遊するものであるが、陸上で繁殖するゼニガタアザラシは一年を通じて北海道東部沿岸に生息する。同種は 1970 年代には乱獲や生息地の破壊によって 400 頭程度にまで減少したが、現在では 1000 頭前後まで回復してきており、それに伴って漁業被害や漁網での混獲といった人間との軋轢が深刻化している地域もある。

浜中町内にもゼニガタアザラシが上陸する岩礁（以下、上陸場とする）が存在するが、そのうち数ヶ所は 1980 年代までに過度の狩猟や漁業の稠密化によって崩壊・消滅した。その中で初田半は、1990 年代後半には非繁殖期の上陸場として再利用されるようになってきたことが明らかになっている。浜中湾北部の上陸場では帯広畜産大学ゼニガタアザラシ研究グループをはじめとする年 2 回のセンサス（個体数調査）で、長期の個体数動向が比較的把握されている。ただし、年 2 回の調査であり、繁殖期を通じたモニタリングは行われていない。また、沖合にあるホカケ岩や過去に消滅したケンボッキ島の現状については近年調べられていなかったが、ここ数年の調査からは浜中湾一帯では最も重要な繁殖場であることが明らかになりつつあり、2014 年度の本調査ではおよそ 30 年ぶりにケンボッキ島での繁殖が確認された。

そこで、浜中湾周辺の数ヶ所の上陸場において、繁殖期から換毛期のゼニガタアザラシ生息数、特に今年生まれた新生仔の数を明らかにし、現状を評価することを目的に調査を行った。ゼニガタアザラシは体表の斑紋が個体ごとに異なり、一生変化しないため個体識別が可能であり、各上陸場での写真撮影による個体データを蓄積することで繁殖状況や寿命、上陸場・地域間の移動等の生活史を明らかにし、将来的な保護・管理に役立てることも合わせて目的とした。

2) 調査方法

各上陸場の概況や調査手法は下記に個別に記すが、浜中湾周辺の 4 ヶ所のゼニガタアザラシ上陸場で 5～7 月に調査を実施し、原則として干潮時を中心に陸上または船舶からアザラシを数えると同時に 400mm 望遠レンズを装着したデジタル一眼レフカメラで個体識別用写真を撮影した。今年は繁殖場として重要なホカケ岩、昨年 32 年ぶりに繁殖確認されたケンボッキ島を中心に行った。また、ゼニガタアザラシ以外の海獣類を確認した時は種や数を記録した。調査地ごとの概況や手法は以下の通りである。

3) 結果ならびに考察

①浜中湾北部： 5月18、19日に1歳以上6頭にくわえ、19日にはゴマフアザラシ1頭を確認した。親子は確認できなかったが、潮周りや波、周辺での漁業の影響等で一時的に上陸場周辺から離れていたことも考えられ、帯広畜産大学ゼニガタアザラシ研究グループ等への聞き取りを行い、それらの情報を総合して今年度の繁殖状況を評価する必要がある。

②初田牛： 5月19日に調査を行ったが、アザラシは確認されなかった。依然として繁殖場としては復活しておらず、季節的な一時滞留地と思われる。本上陸場や落石岬は秋～早春にのみ利用され、浜中湾北部でも秋期ならびに春期に上陸数が最大(100頭以上)となり、モユルリ島など根室方面の上陸場との個体の移動が何頭も確認されている。同時期に浜中湾周辺に定着個体以外の回遊個体が来遊していることは明白であり、今後は同時期の個体数や個体識別調査を進める必要がある。

③ホカケ岩：

5～7月の調査で13～46頭を確認した(表1)。最大は1歳以上(41頭)、新生仔(5頭)とも6月8日であ

表1. 2015年のホカケ岩におけるゼニガタアザラシ確認数

月	日	1歳以上	新生仔	計
5	18	25	5	30
6	8	41	5	46
7	9	13		
	28	18		
*7月以降は換毛のため新生仔区別不可				

った。5月18日には少なくとも5組の親子を確認したが、他に妊娠メスも観察しており、実際の繁殖数はもう少し多く、おそらく10頭前後と推測される。7月以降に確認数が減少したのは、沖合調査に便乗してのため潮の干満や波の状態が必ずしも良好でなかったこと、周辺で盛んになるコンブ漁の影響で浜中湾北部等へ移動したことの両方によるものだろう。回数や条件の限られる船舶調査での個体群動態把握には困難があり、無人撮影装置等の開発が望まれる。

5月18日にはラッコ1頭が海上で二枚貝を捕食するのが観察された。ラッコは道東太平洋沿岸では一度絶滅したが、南千島における個体数の回復にともなって1990年代以降、観察頻度が増加しており、近年では根室半島周辺では複数頭が通年観察されると同時に繁殖も確認されている。法律で捕獲が禁止されており、食性を考えると定置網や刺し網への混獲もそう多くないだろう。海洋環境の劇的な変化が生じない限り、個体数の増加と分布域の拡大は今後も続くと思われ、浜中湾周辺でも今のうちからモニタリングしておく必要があるだろう。

④ケンボッキ島： 結果を表2に示した。陸上からは4月28日～7月6日に3～16頭が観察され、多くの場合、新生仔は距離があって識別不可能だった。7月6日以降、アザラシは観察されなくなった。船の調査では4～25頭、特に5月25日には1歳以上20頭、新生仔5頭と去年を上回る数が確認され、繁殖場として十分機能していることは明白である。ホカケ岩同様、実際の繁殖数はもう少し多いと考えられ、この状態が維持されるなら、浜中湾周辺ではホカケ岩に次いで重要な繁殖場である。厚岸以東の上陸場としてはこの数は決して少なくなく、来年度も繁殖場として利用（＝3年以上連続して繁殖に利用）したなら、繁殖場としての復活を公的に宣言し、保全や共存に向けた取り組みを展開する必要がある。7月以降に確認数が減少するのは周辺でのコンブ漁の影響や餌生物の分布とそれらへのアクセス等による季節的なものであろう。繁殖期に集中的に利用され、その後ほとんど利用されなくなる上陸場は厚岸地区においても確認されている。

表2. 2015年のケンボッキ島におけるゼニガタアザラシ確認数

月	日	アゼチの岬から			船		
		1歳以上	新生仔	計	1歳以上	新生仔	計
4	28	8			-		
	9	8			-		
5	11	4			-		
	15	6			-		
	18	4			-		
	19	2			-		
	23	4			-		
	25	12	3	15	20	5	25
	26	15	1	16	-		
	27	7	2	9	-		
	28	4			-		
	6	1	3			-	
2		6			-		
3		10			14	3	17
6		4			3	1	4
11		5			-		
12		6			-		
13		7			-		
19		4			-		
23		10			-		
29		2			-		
7	6	3			-		

図 2. ケンボッキ島におけるゼニガタアザラシ上陸場（広域：矢印）



図 3. ケンボッキ島におけるゼニガタアザラシ上陸場（詳細：円内）



4) まとめ

2015年4～7月に浜中湾周辺の4ヶ所でゼニガタアザラシをはじめとする海獣類の生息状況、特に繁殖状況を中心に陸上と海上から調査を行った。2014年度とくらべて劇的な変化は無かったが、2000年代前半までは数は少ないながらも少数の親子が定期的に利用していた浜中湾北部では、今年度は親子を確認できなかった。調査精度などの問題なのか、実際に繁殖場として放棄されつつあるのか、早急に現状を明らかにする必要がある。初田牛ではアザラシは確認されず、1980年代初頭の崩壊以降、季節的に利用することはあっても繁殖場としては復活していないと考えられる。ホカケ岩の最大確認数は2014年度より約20頭減少したが、この上陸場は小型船を用いた短時間の調査しかできないため、偶然に左右される部分が多い。妊娠メスも含めると、少なくとも10頭前後が繁殖に利用している点は前年と変わらず、浜中湾周辺においては最も重要な繁殖地である。ケンボッキ島は前年に引き続いて繁殖期に親子を含む上陸集団が観察されただけでなく、親子、1歳以上とも数が増加しており、繁殖に用いる上陸場として復活の途上にある可能性がある。正確な数は船で上陸岩礁に接近しないとわからないが、概数はアゼチの岬から望遠鏡を使って把握可能なので、今後も大まかな傾向の把握と年数回の船舶調査が望まれる。

今年度も約150頭以上の個体識別用写真を撮影したが、前年度に撮影した約200頭以上の写真も含め、整理が追いついていない。整理には時間にくわえ、卓越した技術が必要なので、そのための予算を準備することも必要である。その上で関連する研究者や研究機関とも連携や情報の共有を行い、道東広域でのゼニガタアザラシの移動や個体群動態を考えてゆくことが本種の生物学の解明、ひいては人間との共存に役立つものと確信する。

上述のように浜中湾一帯には秋から早春にかけて来遊個体も加わり、いくつかの上陸場で上陸数が増加する。渡り鳥にとって繁殖地だけでなく、中継地や越冬地もまた重要であるのと同様に、広範囲を回遊する海獣類にとっては季節的に上陸する場所も含め、利用するすべてのエリアが保全の対象となる。今後は非繁殖期、特に換毛期（8月、秋期（9～11月）、早春期（3月）における分布や個体数の調査も必要といえる。

写真（その1：浜中湾北部・初田牛）

浜中湾北部



写真1 上陸場遠景(5/18)



写真2 G岩上のオス成獣(5/18)



写真3 A岩上のオス成獣(5/19)



写真4 性不明の成獣(5/19)



写真5 上陸集団(5/19)

初田牛



写真6 上陸場遠景(5/19)

写真（その2：ホカケ岩）

ホカケ岩



写真7 調査に用いた「ちどり」(5/18)



写真8 上陸場遠景(5/18)



写真9 上陸集団(5/18)



写真10 若獣中心の上陸集団(5/18)



写真11 親子(5/18)



写真12 妊娠メス(5/18)

写真（その3：ホカケ岩）

ホカケ岩



写真13 上陸個体と波(5/18)



写真14 遊泳個体(5/18)



写真15 周辺岩礁の上陸集団(6/8)



写真16 ホカケ岩への上陸集団(7/9)



写真17 ラッコ(5/18)



写真18 二枚貝を捕食するラッコ(5/18)

写真（その4：ケンボッキ島）

ケンボッキ島



写真19 上陸場遠景(5/25)



写真20 親子ほか上陸個体(5/25)



写真21 上陸集団(5/25)



写真22 岩礁上の親子(5/25)



写真23 上陸集団(5/25)



写真24 上陸集団 左端は新生仔(5/25)

写真（その5：ケンボッキ島）

ケンボッキ島



写真25 上陸集団(5/25)



写真26 上陸集団(6/3)



写真27 2組の親子(6/3)



写真28 親子(6/6)